9/23（月）　ホウモン×ガ×センモン

Banjumrung 滞在 11 日目（残り 4 日）。帰国まであと 9 日。

8 時頃に起床してご飯を食べました。今日はあまり朝から物音が無く、おばちゃんたちが作業している感じもありませんでした。
おかずの中にトムヤムクン？があって、パットゥーンさんが追加で刻み唐辛子を入れてくれましたが、浅山ちゃんの「入れなくても美味しいんですけどねぇ(´；ω；`)」と呟いたのが妙に心に残っています。確かに･･･と思いました。
また、細長い豆と卵を炒めたものがとても美味しかったです。

その後、コミュニティセンターに行きましたが、お店も開いてないし台所も気配が無いので、今日は完全フリーの日だと認識しました。
とりあえずマーケットに行く道をまたサイクリングして回り（コンビニでアイス買ったり雨に降られたり･･･）、1 時間ほど暇を潰してセンターに戻ると、お出かけしていたらしいプンさんが帰ってきました。
ナンプラーが置いてあるところ（アートィさん宅）を案内してもらい、乾季は 4 ヶ月、雨季は 8 ヶ月かけて乾燥させる話などを聞かせていただきましたが、どうやら今は作っていないらしく（雨に濡れるとダメなので壺にフタをしている）、すでに瓶詰めしたものを Banjumrung の名前入りの箱に詰めてショップで販売しているそうです。
「日本の物みたいにキレイなパッケージじゃないけどね」と笑っていたプンさんでしたが、私はゴテゴテしたデザインよりもシンプルなものが好きなので、むしろこの赤いパッケージはわかりやすいし良いなあと思いました。

センターに戻ってからは、昼食が出ないのですぐ近くのお店に入り、チャーハンが無かったのでバミーを注文しました。全く辛くなかったのですが、APTU で食べたものより少ししんなり？していました。
そしてプンさんから「何をしたいか」と聞かれたので、また home stay 先を見てインタビューしたいと話したところ、バイクで先導してくれることになりました。

※昼食を挟んでいるので、実際の時系列とはズレています。

1 軒目：ガロォーさん宅
彼女はある工場で働いていましたが、村で仕事をしたいと思い、仕事を辞めて家事育児（子供は 1 歳）に専念しつつ home stay グループに入ったそうです。
home stay を始めて 1 ヶ月目、まだまだ新参者ですが、今のところ 20 人/month を受け入れているのだとか。そして、センターでは cooking グループの一員として活動し、センターに人がいないときはゴムの木などの農業も行うらしいです。
「何故 home stay プログラムを始めたのか？」という質問には
「収入を得るため（home stay や cooking はただの趣味だけど農業より big money）」「家をキレイにするため」･･･との回答がありました。
ある意味究極の答えだなと笑ってしまいましたが、私はむしろ、本人が home stay を趣味と考えているところが凄いと思いました。
他人を家に泊めるには、それなりのもてなしや準備も必要なのでしょうが･･･彼女の中で収入を得るのが第一だとしたら、home stay は村の活性化プロジェクトとして住民の収入アップに確かな成果を挙げているんだなあと感じました。
また、明日から旦那さんがベトナムへ 1 ヶ月間仕事（日本向けの家具製作）に行くということで、それでも生活が成り立つということは、彼女なりに努力しつつも頑張っていけるだけの収入や生活基礎があるんだなあとも思いました。

2 軒目：マヨォーンさん宅

以前お世話になった、バナナチップスの加工担当のトゥンさんと 2 人暮らしです。

seller グループ（パッケージに自分の名前入りのガピを販売）に入っていますが、他の家が楽しそうなのを見て、2 年前から home stay を始めたそうです。

先月は 24 人/month、そのほか、seller グループ＋フルーツ（マンゴスチン 50 本、ドリアン 30 本。木の数は村の平均並）でも収入があるようです。

彼女は結婚して村に来たそうですが（家を建てたのは 20 年前）、そんな彼女が他の人の home stay を「大変そう」ではなく「楽しそう」と思ったのは、それくらい home stay に何かしらの魅力があり、みんながそれを楽しいと思っているんだなあと感じました。

3 軒目：ウワンさん宅

home stay プロジェクトの初期メンバー（開始 1 年目は 10 人のグループ）で、現在はフルーツやゴムの木などの仕事で忙しく、足の不自由なお姉さんの世話もあるため、受け入れをストップしているそうです。

以前は 15 人/month、一度に 10 人は泊まれたとのこと。

彼女の家など、いくつかの家庭には「home stay standard」の認可があります。これは、政府への申請・審査によって得られる称号のようなもので、有効期限は 3 年間（更新可）、去年は 20 軒が認められて、証明書と「home stay standard」の文字を掲げることができます。ちなみにウワンさんの証明書は 2010～2013 年までです。

初期メンバーということで、「何故？」という質問をぶつけてみたところ

「村をキレイにしたい。 自分も幸せだし、健康になれる。そして人もたくさん来てくれる」･･･と言われました。

今は 100 人以上（実質的には宿泊に関わっていないメンバーもいる）のグループになっている home stay ですが、彼女の言うとおり村や家はキレイです。お客さんが泊まることで「キレイにしなきゃ」という意識が芽生え、それが村全体の美しさと、住民の生活の良さに繋がっているとしたら、何て素敵な取り組みなんだろうと思いました。日本でも活性化で home stay を受け入れるとしたら、是非に見習うべき点だと思います。

4 軒目：ジェーさん（ルゥンチャイさん）宅

こちらは 4 年前から受け入れを開始しており、一度に 5 人が宿泊可能だそうです。先月は 28 人/month でした。

家族は彼女と夫・娘・犬の 4 人、生まれは村で 37 年前に結婚して家を建て、現在は seller グループ（ガピ 1kg/160 バーツ）やフルーツ（ドリアンチップス、ジャックフルーツなど）、センターに人がいないときはたまに農業（スッポンなど）もやるらしいです。

「何故」という質問には

「friend ができるしお金も得られるから」「home stay そのものが好き。enjoy している」･･･とのことです。

夫婦揃って「夢は健康で長生きすること（マッスル！）」だそうですが、私としては、home stay によってその夢に近づいているような気がします。ただ、やっぱり「money」を連呼していたことからも、このプロジェクトが住民の収入アップに貢献しているのは間違いないなあと思いました。

訪問が終わったあとは、センターに行って発表についての話し合い･･･という名の大討論会になり、多少ギクシャクしつつもどうにか方向性を固めました。

夕食は home でいただきましたが、始めて貝が出てきて、食べ過ぎたらお腹を壊しそうな気がしつつもつい手が出てしまいました（笑）

食後に食べた焼き菓子？のようなものがやたら美味しくて、たくさん食べてしまったのですが、よく考えたら訪問中にドリアンキャンディー・ロンコン・ピーナッツをいただいていたので、これも食べなきゃならないと思うと、日本に帰った時の体重が心配になります(´Д`;)

3 人まとめてではなく個人発表という形に決まり、今後がかなり不安です･･･
私が村で何を感じ、何を考え、どういう影響や印象を受けたのか、英語で説明しなければいけません。相手は村を研究しているプロの教授。どうやっていくか、自分と向き合いながら準備を進めていきたいです。

ところで、実は数日前から私のタオルが 1 枚行方不明になっていたのですが
水のペットボトルが置かれているテーブル（の近くのイス）にかけられた状態で発見されました。奇跡的な出会いでした。